

# 関係を育てる心理臨床

## セラピーを終わることをめぐって

\* 当財団(講座)は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として、(公財)日本臨床心理士資格認定協会より「短期研修機会(ワークショップ)」の承認を受けております。 <承認期間:2017年7月1日~2022年6月30日 承認番号:W29111>

期 日：2020年10月10日(土)・11日(日)

受講対象：臨床心理士・看護師・保健師・保育士・相談員・教師など、医療や福祉・教育・相談・子育て支援などに携わっている専門家、大学院生、および関心のある方々

定 員：70名(定員になり次第締切りますのでホームページなどでご確認ください)

受講料：13,000円(税込み) ※昼食は各自おとりください

主催：公益財団法人 明治安田こころの健康財団 ☎03-3986-7021

会場：明治安田こころの健康財団 講義室 ※詳細地図は受講証に添付いたします  
東京都豊島区高田3-19-10  
JR山手線・西武新宿線・東京メトロ東西線「高田馬場駅」下車徒歩約7分

\* 企画講師(敬称略)：田中 千穂子 / 学習院大学文学部心理学科 教授  
花クリニック 臨床心理士、文学博士

この講座をおひきうけて14年目。3年目から「関係を育てる心理臨床」という名称に定め、毎年セラピストとクライアントという関係のなかで生じるさまざまなことを毎年1つのテーマからみつけ、具体的なケースを通してどのように理解し、対応してゆくクライアントへの援助になるかをみなさんと一緒に考える時空間を設けてきました。

今年はテーマとして「セラピーを終わることをめぐって」という大きなタイトルを掲げました。セラピーはクライアントが何かしら困ったこと、問題や課題を抱えてセラピストの前にはじめられることから始まります。そして互いに互いを知ろうとしつつ、クライアントの問題解決のために関係を育ててゆき、関係のなかで問題をみつけながら相談が進んでゆきます。ひとりのセラピストがそのクライアントの問題の解決なり改善のために最後まで伴走して終結を迎えることができると、お互いにとって「ひとまとまり」という感じになるように思います。しかししばしば、そうはならない事態が起こります。

セラピストの側から捉えると、自分の内的問題や家族との関係でその職場で続けられずに辞める、あるいは自分が病気になって治療や療養のために続けられない、という場合も起こります。職場の待遇の問題やより自分をいかせる職場をみつけたのでその機関を去る、ということもあるでしょう。大学院修了時のおわかれもセラピスト側の一方的な「終わり」です。そういうことはいいか悪いかではなく、かならず起こるのです。

しかし一人のセラピストにとってもおそらく何度も起こるであろうこと、さらに多くのセラピストがきちんと対処しなければならぬこの事態に対して常識的、あるいは理想的なことは書かれていても、実際の工夫はあまり語られていないように思います。しかし自分がここを離れる、終わりにするという問題は、自分と相手との間で紡がれたそれまでの心理治療のすべてをどのように互いに収めてゆくかであり、一歩間違えるとセラピーの「し荒らし」になるのです。これは始まりだと同様、ものすごく大事なテーマです。そこで今回は、このむずかしい問題を実際のケースをもとにみなさんと一緒に考えていきたいと思ひます。

《田中 千穂子》

	日程	時間	テ マ
プログラム	10月10日 (土)	13:00~17:30	初日も2日目も、私自身が考えていることを講義として提示しつつ、提出していただいたケースを織りまぜながら進めてゆきたいと考えています。
	10月11日 (日)	9:00~12:15	同上
		12:15~13:15	昼食(各自おとりください)
		13:15~16:00	事例検討・講義ほか

※ 講義の途中、1~2時間の単位で、適宜休憩時間を入れます。

※ 事例の提出締切は9月10日(木)です。用紙につきましては、HPの申込書欄から取りだせます。  
ご不明な点は、事務局にお問い合わせください。